
滅びゆくもの達

暁 京

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

滅びゆくもの達

【Nコード】

N2046A

【作者名】

暁 京

【あらすじ】

次々と減ってゆく仲間達。彼らの正体は？

「——おい、大丈夫か？」

まだそれなりに元気のあるものが声をかけた。しかし、返事が出来る状態のもの達は少なかった。

「うつ……。な、なんとか……」

弱々しい声で返事が返って来る。今にも消えてしまいそうだ。

「全くなんてヤツなんだ。俺達の大事さも知らずに……」

「しょうが……。ないさ……。世の中、豊かになっちまって……。後のことなんて考えずに……」

一番古いものが言った。

「俺達はこんなに汚れて、菌に蝕まれて……」

「もうダメなものも大勢いる……」

「二十の同胞のうち、半分以上がやられちゃった……。俺らもう長くはないだろうよ。何て事だ……」

「情けないが、もう抜きたいよ……」

「ああ……」

「それもそうだな……」

「——痛っ……」

古いものが叫んだ。

「おい、どうした！」

「……やられた……。お先にし、つ……れ……」

声はみるみるうちに小さくなり、やがて途絶えた。

「おい……」

返事はなかった。

「……………」

重い沈黙が、漂う。

「なんでこんなになるまで放っておいたんですか！？痛かったでしょうに」

「は、はア……」

「全くもう……。これでは、全部抜いて入れ歯にした方がよっぽどましですよ！あなた、ちつとも歯磨きをしていなかったでしょう」

「ぜ、全部ですか……」

「これでは歯がかわいそうですよ。当分通ってもらう事になりますからね」

——歯医者とまだ若い患者は、そんな会話をするのであった。

（後書き）

読んでくださってありがとうございます！普段の暁とは180度
違う雰囲気作品にしてみました。クスッと笑って頂ければ嬉しい
ですv v

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2046a/>

滅びゆくもの達

2010年11月13日14時37分発行